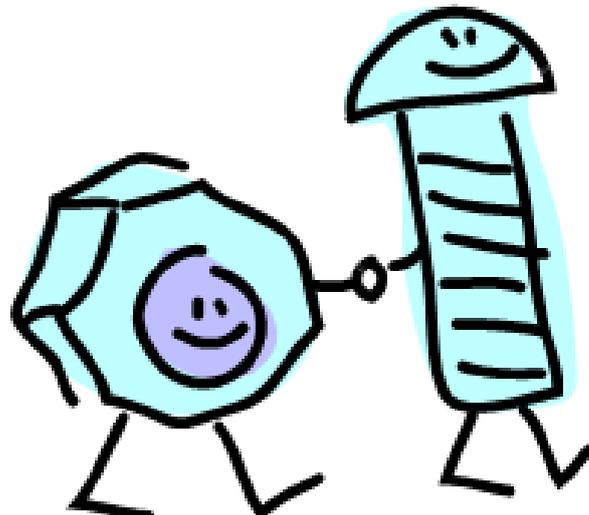


2018年度 環境経営レポート

(対象期間：2018年7月1日～2019年6月30日)



モノづくり応援プロジェクト

作成日：2020年1月29日

小林商工株式会社

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
4. 環境経営目標及びその実績	4-5
5. 環境経営計画及びその評価・次年度の計画	6-8
6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	8
7. 代表者による全体の見直し・指示	8

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

小林商工株式会社
代表取締役社長 小林 真一

(2) 所在地

本 社 : 神奈川県横浜市神奈川区栄町 20-1 YMPF101
いずみ野工場 : 神奈川県泉区和泉中央北5-25-18

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 友井 三夫 TEL:045-620-5368 FAX:045-620-5182
Eメール: tomoi@kobasho.co.jp

担当者 : 永吉 正人 TEL:045-620-5368 FAX:045-620-5182
Eメール: nagayoshi@kobasho.co.jp

(4) 事業活動の内容

鋳螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学器機用精密部品の製造・販売

(5) 事業の規模

主要製品の売上高 25,000 万円/30 年度

	本社	いずみ野工場
従業員数	12名	4名
延床面積	123.57㎡	203.04㎡

EA21 対象範囲

当社は全組織・全活動及びその全従業員を対象としています。

2. 環境経営方針

〈環境経営理念〉

小林商工株式会社は、鋳螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売を通じてお客様の要望に応え地域社会から信頼される企業を目指します。同時に、事業活動を展開することは環境への負荷をもたらすものであり、広く環境対策に取り組むことが重要であると考えています。

このような認識のもと、全ての事業活動を通じて継続して温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに省資源対策にも取り組み、持続的な発展が可能な社会づくりに貢献していきます。

〈基本方針〉

環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境経営の継続的改善を図りながら、下記事項に取り組みます。

1. 節電と化石燃料の節約を進め、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水に努め、排水量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した鋳螺並びに関連部品の製造、販売に努めます。
6. グリーン購入を推進することにより、環境に配慮した調達を進めます。

社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション 21 環境経営方針を周知します。

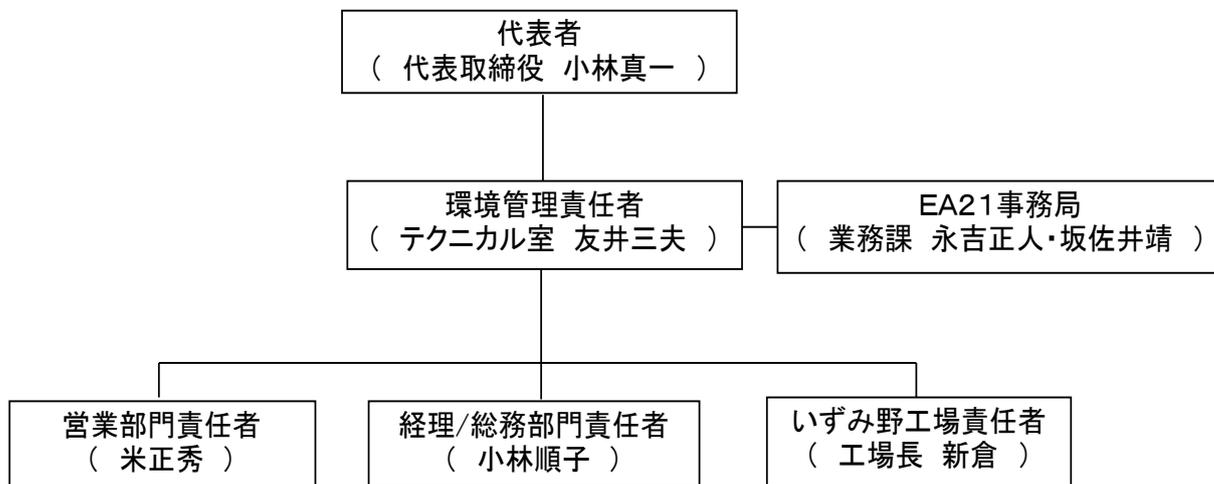
制定日 2018年7月23日

小林商工株式会社

代表取締役 小林 真一

3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

環境経営実施体制表



対象者	役割、責任及び権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化 (要求事項1) 2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化 (要求事項2) 3. 環境経営方針の策定、全従業員に周知 (要求事項3) 4. 実施体制の構築 (要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し (要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価 (要求事項4：事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ (要求事項5：事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定 (要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施 (要求事項9) 5. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防 (要求事項13) 6. 文書類の作成・管理 (要求事項12：事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表 (事務局担当)、確認 (環責)
部門責任者	1. 教育・訓練の実施 (要求事項8) 2. 実施及び運用 (要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応 (要求事項11)
全従業員	1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の認識 2. 環境経営目標、環境経営計画などに基づくEA21活動の実施 3. EA21活動に関する提案

4. 環境経営目標及びその実績

4-1. 環境経営目標

		2017年度 基準年度	2018年度	2019年度	2020年度
1. 二酸化炭素排出量削減					
・電気 (kg-CO ₂)	本社	4,976	1%削減	2%削減	3%削減
	いずみ野工場	25,213	1%削減	2%削減	3%削減
・ガソリン (Kg-CO ₂)	本社	26,460	1%削減	2%削減	3%削減
	いずみ野工場	-	-	-	-
・都市ガス (Kg-CO ₂)	本社	784	1%削減	2%削減	3%削減
	いずみ野工場	-	-	-	-
・液化石油ガス (Kg-CO ₂)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	183	現状維持		
・CO ₂ 合計 (Kg-CO ₂)	本社	32,220	1%削減	2%削減	3%削減
	いずみ野工場	25,396	1%削減	2%削減	3%削減
	会社全体	57,616	1%削減	2%削減	3%削減
2. 廃棄物排出量削減					
・一般廃棄物 (Kg)	本社	532	1%削減	2%削減	3%削減
	いずみ野工場	174	1%削減	2%削減	3%削減
3. 総排水量削減 (m ³)	本社	59	現状維持		
	いずみ野工場	97	1%削減	2%削減	3%削減
4. 化学物質適正管理 (Kg)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	800	現状維持	全廃	全廃
5. ROHS対応品販売 (%)	本社	未把握	実態調査	2018年度実績を基に設定	
	いずみ野工場	-	-	-	-
6. 製造不良数改善 (件)	本社	未把握	実態調査	2018年度実績を基に設定	
	いずみ野工場				
7. グリーン購入 (%)	本社	38.9	1%向上	2%向上	3%向上
	いずみ野工場				

※基準年度は、2017年7月～2018年6月

※CO₂排出係数は、H28年東京電力Iパワーエナジー(株)の調整後排出係数0.474Kg-CO₂/kWhを使用した。

4-2. 運用結果

		2017年度 基準年度	2018年度 目標	2018年度 実績	評価
1. 二酸化炭素排出量削減					
・電気 (kg-CO ₂)	本社	4,976	1%削減	3948	○
	いずみ野工場	25,213	1%削減	37,287	×
・ガソリン (Kg-CO ₂)	本社	26,460	1%削減	24,147	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・都市ガス (Kg-CO ₂)	本社	784	1%削減	590	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・液化石油ガス (Kg-CO ₂)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	183	現状維持	267	×
・CO ₂ 合計 (Kg-CO ₂)	本社	32,220	1%削減	28,685	○
	いずみ野工場	25,396	1%削減	37,554	×
	会社全体	57,616	1%削減	66,239	×
2. 廃棄物排出量削減					
・一般廃棄物 (Kg)	本社	532	1%削減	441	○
	いずみ野工場	174	1%削減	170	○
3. 総排水量削減 (m ³)	本社	59	現状維持	53	○
	いずみ野工場	97	1%削減	169	×
4. 化学物質適正管理 (Kg)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	800	現状維持	800	○
5. ROHS対応品販売 (%)	本社	未把握	実態調査	実態調査 (84.7)	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
6. 製造不良数改善 (件)	本社	未把握	実態調査	実態調査 (13)	○
	いずみ野工場				
7. グリーン購入 (%)	本社	38.9	1%向上	42.3	○
	いずみ野工場				

○目標達成 △目標未達成但し基準年度より改善 ×目標未達成

5. 環境経営計画及びその評価と次年度の取組内容

5-1.環境経営計画及びその評価

環境経営計画	取組結果	評価
二酸化炭素排出量削減(電気)		
本社 ①空調温度の適正化(冷房:27℃ 暖房:20℃) ②エアコンフィルターの定期清掃 ③クールビズの実施 ④外出時はパソコンの電源をOFF ⑤昼休みの消灯 ⑥遮熱シートの設置	室温管理を徹底でき効果は大きかったと思われる。 当番を決めて週に1度実施した。 クールビズは9月一杯実施した。 実施率は90%以上だった。 EA事務局が率先して消灯した。 遮熱効果により冷房の使用を抑えることができた。	○ ○ ○ ○ ○ ○
いずみ野工場 ①空調温度の適正化(冷房:26℃ 暖房:20℃) ②照明のこまめなスイッチのON・OFF	室温管理を徹底できた。 作業の際不要な照明をこまめにOFFにした。	○ ○
二酸化炭素排出量削減(ガソリン)		
本社 ①エコドライブの実施 ②荷物を積む際のアイドリングの実施 ③車両以外の交通手段を併用	手順書を営業車に載せて意識を徹底した。 以前より改善されたが、実施できていない事もあった。 公共交通機関の使用は少なかった。	○ △ ×
二酸化炭素排出量削減(都市ガス)		
本社 ①4~10月は使用しない	未使用だった。	○
二酸化炭素排出量削減(液化石油ガス)		
いずみ野工場 ①湯沸かし器の控えめ使用	意識して取り組んだ	○
廃棄物排出量の削減		
本社及びいずみ野工場 ①B1用紙の裏紙を使用 ②会議にプロジェクターを使用し紙の削減 ③メール・クラウドを積極的に利用し紙の削減	EA取組前から実施。 会議に使用する紙の削減に効果があった。 クラウドを拡張し保存できる容量を大きく増やした。	○ ○ ○
総排水量の削減		
いずみ野工場 ①節水ポスターの掲示 ②節水意識の徹底	流し場に節水ポスターを掲示した。 各自の意識がまだ足りていない。教育が必要。	○ ×
化学物質適正管理		
いずみ野工場 ①SDSの取り寄せ ②使用量を控える ③全廃に向けての対策を検討	SDSを取り寄せ工場にて保管 生産量が増えたため、使用量の削減はできなかった。 遠心分離機の導入を決定した。	○ × ○
ROHS対応品販売促進		
本社 ①現状の数値を把握	販売率を把握した。	○
製造不良数改善		
本社及びいずみ野工場 ①現状の不良率を把握する為の方法を検討 ②不良数の実態調査	不良対策書を運用する事を決定した。 取組期間中の数値は把握できなかった。	○ ×
グリーン購入		
本社及びいずみ野工場 ①グリーン購入の実績把握 ②グリーン商品の切替推進	実績を数値として把握した。 製品を選定し切替を実施したが、さらに切替の余地がある。	○ △

○:達成 △:一部未達成 ×:未達成

5-2. 次年度の取組内容

5-2-1. 二酸化炭素排出量削減

- 電気 本社は目標達成。継続して実施する。
いずみ野工場及び会社全体については、今年度大規模な設備の導入があり、その影響が大きく目標は未達成となった。
設備増加を考慮し、今年度の実績を基準とした目標値を設定し取組を実施する。
工場事務所内の照明をLEDに切り替える。
工場の残業及び休日出勤が多かった事も使用量増加の原因の為、残業時間を減らす様に努め、休日出勤は原則禁止とする。
- ガリソ 目標は達成。公共交通機関の利用を増やす様に意識する。
- 都市ガス 目標は達成。継続して実施する。
- 液化石油ガス 目標は未達成。人員の増加の影響があった。
今年度の実績を基準とし、目標値を変更し取組を実施する。
温度を最低温度に設定し削減に努める。

5-2-2. 廃棄物排出量削減

本社及びいずみ野工場共に目標は達成。
会議では紙の資料をなるべく使用せず、クラウドを有効活用できている。
会社全体のペーパーリ化が進んでいる。取組については、継続して実施する。

5-2-3. 総排水量の削減

本社は目標達成。
いずみ野工場については今年度人員の増加（2名→4名）があり、
目標は未達成となった。今年度の実績を基準とし、目標値を変更し取組を実施する。

5-2-4. 化学物質適正管理

使用量の削減はできなかった。全廃に向けて遠心分離機を導入する。

5-2-5. ROHS 対応品販売促進

初年度は実態調査。目標値を設定し実施する。
六価クロム製品から三価クロム製品の切り替えを推奨するパンフレットを作成して、客先に配布する。

5-2-6. 製造不良数改善

初年度は実態調査。数値を把握した。目標を設定し不良数削減に努める。

5-2-7. グリーン購入

目標は達成。継続して実施する。



社内にEcoアクション掲示板を設置し、現在の取組内容を一目で分かりやすくしました。電力・ガソリン使用量などを、目標値と比較したグラフを掲示します。現在の進捗状況を周知し、社員全員でEcoアクション21に取り組めます。

6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認・評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物の処理)	○
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (P R T R法) SDS制度	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
大気汚染	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	○

当社に關係する環境関連法規などは上記の通りですが、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

Ecoアクション21を所得して丸一年が経ち二酸化炭素排出量削減について、本社としては削減できたが、いずみ野工場では依然として削減することは出来なかった。排出量を減らさなければいけないと同時に設備・人員の拡大により工場の生産出来高も上げなければいけないというジレンマに駆られて、残業の増加や休日出勤など裏目に出たことが目立ってしまった。それについては、今一度時間内に効率のいい仕事をするためにはという原点に戻って、環境コミュニケーションの取組みも含めて考える必要がある。Ecoアクション21活動を始めて1年がたち、振り返りを含めて今一度社員全員がEcoアクション活動を理解した上で環境を原点にコミュニケーションをとれるようになっていかなければならない。今後も、Ecoアクション21を継続して取り組んでいくことにより社会的責任の一環として継続していきます。